（環境）岡崎市立常磐小学校　４年

青木川をきれいにしよう

４月～２月（３５時間）

１　ねらい

本校の南には青木川が流れている。滝山寺の仁王門を境に、川幅が広がり、流れも緩やかになる。漁業権もなく、アユを自由に獲ることができるため、夏休みには川に入って祖父母と川に入って水遊びをしたり、魚を獲ったりする姿を見かける。児童にとって、青木川は遊びの場である。しかし、年々、川辺にごみが散乱していたり、水が濁りだしたりしてきているのを感じ、何とかこの川の環境を守っていくことはできないか、そして、水質保全を地域の人たちに呼びかけることはできないかと考え、本主題を設定した。

２　実践の概要

（１）　青木川と友達

①　アユの放流式

４月、アユの稚魚を放流した。岡崎市の漁業組合の方の計らいで、毎年アユの稚魚を放流させていただいている。バケツに入れていただいた稚魚の姿をいつまでも見送る子供の姿を見ることができた。

【写真１】稚アユの放流

②　稚アユの観察

放流したアユを見に出かけた。上流へ泳いで行っているか、下流に行っているか分からないため、川沿いの道を歩いて観察した。しかし、石の陰に隠れてしまったのか、ほとんど見つからなかった。川を見ると、ペットボトルが流れていたり、草の生えているところには、お菓子のごみが捨ててあったりと、気になることがたくさん出てきた。

③　青木川で遊ぼう

【写真２】青木川で遊ぶ児童

青木川に入って、魚をつかんだり、水辺の生き物を観察したりすることにした。夏休みには、保護者付き添いのもとで、川遊びをしている児童を見かけるが、これまでに川へ入って遊んだことのない児童もいた。青木川には、たくさんの種類の魚や、水辺の生き物がいる。網でつかんだり、手で獲ったりしてはしゃいだ。水はきれいだが、川辺には、ペットボトルや空き缶、ごみが落ちていることに気が付いた児童も多い。遊びを通して、青木川への関心が高まった児童が多く、「ごみが落ちていたから、掃除に行きたい」と日記に書いてくる姿も見られるようになった。

（２）青木川のことを知ろう

①青木川の上流や下流を見に行こう

本学区辺りを中流域とし、上流である常磐東学区、下流である大樹寺学区へ探索に出かけた。上流域は、川幅も狭く、川に傾斜があり、周りも木々に囲まれていた。水も透き通っていて、意見して「水がきれい」ということが分かる。ペットボトルに採取した水も、中流域のものとは明らかに違っていた。きれいな水だから、魚もたくさんいるのではない

かと考えていた子が多かったが、魚の姿は見えなかった。

また、下流域へ行くと、川幅も広くなっていたが、水が濁っていて、生くさい臭いがした。川の中をのぞくと、ザリガニが淵にいた。指標生物のことを先に学習しておいたので、「ここの水はきれいじゃないよ」と声を出した子もいた。水質検査を行い、子供たちなりに、科学的にも汚れているということが理解できた。

【写真３】上流の観察

②　青木川河川美化を行おう

学区の行事「青木川河川美化」に４年生が参加することになった。河川に草が生えると、見えないからといって、ごみをポイ捨てする人がいる。６月２０日土曜日であったが、たくさんの児童が出て、学区の人たちと一緒に草を刈り、青木川をきれいにした。

【写真４】下流域の水を調べる児童

【写真５】青木川河川美化で汗を流して草を取る児童

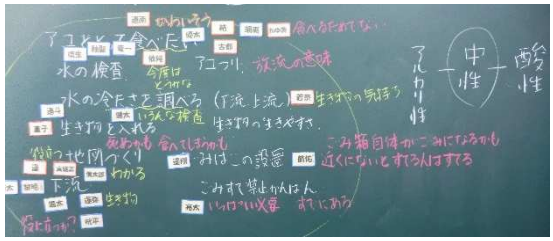
６月２０日、ぼくは、学区の人たちと青木川をきれいにした。前に放流したアユが元気に泳いでほしいと思って、あせを流してがんばった。ビニール袋３０枚くらい草を取った。つかれたけど、川がきれいになると思うとうれしかった。

【資料１】青木川河川美化の児童Ａの日記

【写真６】草を袋に詰める児童

（３）「青木川をきれいにしよう」を呼びかけよう

青木川の自然を守るために、自分たちのできることを話し合った。「看板を立てる」「ごみ箱を設置する」「水の検査をして、結果を知らせる」などたくさんの意見が出てきた。「そんなことをしても効果があるか分からない」という意見もあり、どうしていったらよいか子供たちも悩んだ。そして、まずは、全校の子に呼びかけ、家庭に伝えてもらい、家庭から地域へと発信していくことにした。その方法として、まずは、青木川のことを知ってもらうクイズをすること、すごろく遊びを通して青木川に親しんでもらうことを計画した。



【資料２】青木川を守るために自分たちのできることを話し合った時の板書

３　実践を振り返って

「青木川をきれいにしよう」の実践を通して、これまで、学区を流れる川であるのに無関心であった児童が、「川の水が雨で増えていた」「鷺がいた」「ペットボトルが捨ててあった」と報告をしてくれるようになった。川への関心が高まり、環境を自分たちの手で守っていきたいという姿が見られるようになってきたことは本研究の成果と考える。しかし、自分たちだけの力には限界があることも感じて、ここをどう解決していくかが課題である。